

まだ暑い日が続いていますが、少しずつ日が短くなり、秋が近づいてきました。

秋は、実りの秋、食欲の秋、読書の秋など、いくつか修飾する言葉がついて表現されることが多いですね。その中に「天高く馬肥ゆる秋」という言葉があるのを知っていますか。秋は、空が高く見えるということと、実りの秋であるから馬も肥えるというか太るというか、そういう状態になっています。さわやかで気持ちの良い秋を表現する言葉です。でも、もともとは、昔の中国で、秋になると十分食べて栄養を蓄えた馬に乗って中国北方の騎馬民族である匈奴(きょうど)が、攻めてくることを注意するための言葉だったそうです。しかし、先にも言ったように今ではさわやかな秋を表す言葉として「天高く馬肥ゆる秋」があります。

ところで、なぜ秋の空は高くそして青く見えるのでしょうか。大きく理由は二つあります。夏によくみられる積乱雲、いわゆる入道雲は縦に長い雲で上部は 10,000m を超える高さですが、下部は地表に近い空の低いところにできます。下から見ると低いところに雲があるように見えます。それに対して、秋にみられる巻雲(すじ雲)や巻積雲(いわし雲やうろこ雲)は低くても 5,000m、高ければ 13,000m の高いところに雲ができます。だから空が高く見えます。このように理由の一つは、高いところに雲ができるということです。

次に夏の高気圧は太平洋つまり南の海からやってくる高気圧で水蒸気をたくさん含んでいます。水蒸気を含んでいるのでその分空気が澄んでいるとは言えません。それに対して、秋の高気圧は大陸からやってくる移動性高気圧で乾燥していて水蒸気をあまり含んでいません。その分、空気が澄んでいるのです。水蒸気、つまり湿気を多く含み空気として不純物の多い夏の空気は太陽からやってくるいろいろな色の光をほとんど散乱し、結果的に白っぽく見えます。それに対して秋の空気は、酸素や窒素などの空気本来の小さな粒子が青い光を多く散乱します。その結果人の目には空が青く見えます。そして澄んだ空気だから遠くまで、つまり高いところまで見える。空が青く高く見えるわけです。今は夏と秋の比較をしましたが、春の雲も高いところのできる雲があったり、大陸からの移動性高気圧だったり秋と似ているところがあります。しかし、春は空がかすんでいることが多いです。それは、夏のように水蒸気ではなく、ほこりやチリなどが多く含まれているからです。冬の間木々の葉が落ちてほこりが舞い上がりやすくなっているのです。さらに春は中国から黄砂がやってくることなどで、空気に不純物が多く結果的に太陽の光が散乱され、白っぽく見え、かすんでいるから空も高く見えないということになります。

さて、秋に関連して吉田松陰は次のような内容のことを言っています。吉田松陰は、皆さんが中学校の時に勉強しましたね。吉田松陰は江戸時代末期、幕末の頃に、松下村塾で高杉晋作や伊藤博文、山県有朋など幕末から明治に活躍した人をたくさん育てた人ですね。また、井伊直弼らが行った安政の大獄で処刑された人ですね。その吉田松陰は安政の大獄により、処刑を待つ身になりました。そんな中でも吉田松陰は、心穏やかに自分の人生を季節に例えて言葉を残しました。春に種をまき、夏に稲を植え、秋には刈り取り、冬にはその果実や米を貯蔵する。苦労した結果の秋の収穫期は花が咲き実を結ぶ時で、人々はそれを喜ぶ。悲し

いと思う者を見たことがない。私の残した実を誰かが、受け継いで田畑にまいて、秋に収穫してくれたらうれしいです。だから、私も悲しいわけではない、というような内容の言葉を残しています。

今、季節は秋ですが、皆さんは人生の中ではまだ春ですね。春はさっき言ったように、いろいろな不純物があっつかすんでいて、空が高く見えません。いろいろな困りごとがあったり、将来のことなどまだよく見えなかったり、悩んでいる人もいるかもしれません。いろいろな困りごとや悩みを超えれば、情熱的で、時に暑くて倒れそうになるかもしれないけれど、楽しいこともある夏が待っていると思います。そしてそのあと、秋の澄み切った空を見ることができるようになる。収穫の秋を喜ぶことができるのではないのでしょうか。収穫の秋は人生のだいぶ先ですが、澄み切った青い空をずっとずっと先にみることができるよう、ぜひ、青春、最近のことばでいうと「アオハル」でしょうか、人生の春の時期である今を、意味のある過ごし方をしてください。